

小樽潮陵高等学校弓道部

弓道は、身体能力、技術以上に「心」の安定、「心」の充実がとても大切になります。精神面での影響が射の巧拙に大きく反映されます。的に向き合った時、いろんな思いがわき上がってきます。雑念、否定的思い、不安…そうした思いに負けない「平常心」「前向きな心」を習慣化させるのも、弓道の目標の一つです。

「的に対する執着心や欲望、雑念を去り、正しい信念にもとづき克己、冷静、忍耐、決断力等の心気の充実につとめるとともに、疑い、不安、弱気、恐怖、卑下感の陰性^{ひっしょく}を払拭しなければならない。」

練習してきたことを信じ切り、自信を持って、ぶれない心、不動心で的に向き合うために、常に「前向き」に考えることができるように練習しています。

コロナ感染拡大で、休校が長引いていますが、不安や否定的になる心を払拭し、今できることを着実に積み上げてみるとどうでしょう。休校明けに君たちと弓道を楽しむ日を、部員一同心待ちにしています。

東日本大会 白星射抜く

小樽陵高弓道部の女子チームが、群馬県高崎市で26日に開催した第18回東日本校対大会出場し、24日に初戦を迎えた昨年12月の全国大会で敗退し悔しさを胸に練習を重ね、上位進出を目指す。選手は「絶対に予選を通過し、トーナメントまで勝ち残りたい」と意気込む。前野真由

基礎固め重ね「予選通過を」

昨年10月の北海道高校弓道連合会
南北海道入りの女子団体優勝し、東
日本大会と昨年同様に出場する間、開かれ
た全国大会の出場権を初め獲得。全国
大会では予選通過できずに敗退し
た。

大会後、課題は技術不足だと考え、弓
道の基本動作、射法八節を固める習
いに力を入れた。川口選手は「昔は
2人組だったのを意識を持ってまじ
う形が乱れる、どんな状況でもまじ
い形で弓を引くよう意識した」と話す。

東日本大会は男子チームが出場する。
5人制と3人制が行われ、いずれも中
入4本ずつ、矢を打ちきりチーム全体の得点
合計で競う。5人制は上位1チーム、
3人制は上位32チームが駒上げトナメン
トに進む。初戦は5人制が行われる。

監督の田中崇典(50)は「流れに乗
れば強い。基本徹底し、練習量多く
の対策として経験をたくさん積んできた
のは向かっていい」と話す。川口主将
はみんなを信じて一本も落とさず当て
られるように練習していると力強く語った。



東日本大会に臨む小樽陵高弓道の女子メンバーら

H31 年 3 月 24 日 北海道新聞

11月20日(2/19) 新聞

樽潮陵高弓道部 全国へ

女子団体 南北海道大会で初V

全国大会に向け鍛錬する潮陵高弓道部の(左から) 渡辺さん、川口さん、森さん、斉藤さん

小樽潮陵弓道部女子チームが16、17日の北海道高校弓道杯・南北北海道大会(北見市)の女子団体を初優勝した。今月24、26日開市市で開催される全国大会に向け、鍛錬を重ねる。川口選手は「1層は全射制覇」と力を奮起する。

市内の高校の通算が女子団体で全国大会に進むのは2009年の小樽桜陽高以来13年ぶり。すれども2年の川口さん、渡辺勝乃さん、森藤さんらの人が出場。斉藤拓也が補欠選手として支える。

南北北海道大会団体戦では選手3人が4選手ずつの28射を戦った。3射の順位は1層36射、2層34射、3層33射の成績で初優勝した。

エースの渡辺さんは選手リクエ、3回目に全射的中する「層中」を出す好調ぶり。高校に入ってから弓道を始めたという「ハヤ生で始めた」ルンペンキーで培った、ぶれない体の軸が自分の強みと話す。

川口さんは「大会の期待感の中、自分の心臓の音がどどどと聞こえる緊張感を感じて、森さんは「3連射は相手の弱さをのぞくまで」と的の勝負、仲間を信じて「自分が」と語った。

「自分と的の勝負」頂点も視野

H30 年 12 月 19 日 北海道新聞